

早いもので父辰義の一周忌を迎えました。

発病後約3か月で3回の入退院を繰り返し、平成28年1月28日午前4時18分、胆管癌のため帰らぬ人となりましたが、今思えば何とも父らしい最後だったと思います。

病名を告知したのは発病後1か月の11月中旬で、それまでもその後の12月も、通える時は欠かさず週一回の組合学校の教鞭をとったのが父の身上でした。この分で行くと、本人も家族も担当医師のいう通りの余命半年よりも、もしかするとまだ1年くらいは大丈夫だろう、という気持ちがありました。それくらい病状は軽く元気そのものだったのです。

正月を自宅で家族や孫と過ごし、新年最初の組合学校の授業を終えて自宅に戻ってきたのが1月15日。これが最後の電車を通う日となり、帰ってくるなり「来週で最後の授業にしたい」と話したのが様態悪化を知る始まりでした。その後1週間は自宅で療養し、1月22日を迎えました。この授業は組合学校事務局のご尽力により、「特別授業」として学生さんは正装にて授業を受けていただき、聴講席には急なこととはいえ父ゆかりの方々が数名お集まりいただき、組合学校の長い講師生活を締めくくる何よりのサプライズでした。

この1年間、2枚の写真を父の位牌と並べて仏壇の中にあります。

1枚は、組合学校卒業式での祝辞を述べているときの写真。誇らしげな、一番幸せそうな顔をした写真です。

もう1枚は、1月22日の組合学校正面玄関。第76期学生さん達のアーチを頂いて、組合学校を後にする父の姿。本人にとって、これが組合学校での最後の姿となりました。

大事にしたい父の写真です。



最後になりましたが、組合学校の吉田校長はじめ佐藤学監、事務局の方々には大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。また、社会に出られて約1年、第76期の学生さん、山本辰義という老教育者が組合学校に居た、ということを忘れずにいて下さい。

入院中に頂いた『寄せ書き』は、写真同様、今も父の傍らにあります。卒業生の活躍が父への一番の供養です、これからも頑張ってください。

長男 山本義樹 (漁協経営センター代表取締役社長)